

山西省の南部、黄河に近い中条山脈の北側に運城という市があります。市内には、唐代に創建され、池の神と太陽と風を祀った池神廟があります。歴代皇帝が塩業の隆盛を祈願しにやってきたという由緒ある廟ですが、ここからは白い堰堤のように塩が堆積している様子が一望できます。これが、南北が約4km、東西が約30kmの解池(xiè chí)*という塩湖です。*解池(jiě chí)ではないので注意

内陸にあるこの解池は古代から人々にとって欠かすことのできない塩の供給源として大変重要なものでした。今は食用塩の生産は行われず、工業用に使われるだけになってしまいましたが、数年前に、湖の底に沈澱している泥を利用した健康施設が湖の中程に作られました。

泥に含まれている微量の重金属や元素が皮膚の新陳代謝を促し、血液の循環を良くし、免疫力を高めるなど、なにやらありがたい効能がたくさん挙げられています。去年、旅の途中でそうとは知らずに立ち寄り、疲れが癒され、おまけに肌がツルツルピカピカになったのに味をしめ、今年もまた友人たちと訪れました。

湖に張り出した道の突き当りにドーム型の建物があります。その手前には湖を区切って作った遊泳場があり、5月から9月まではその中で浮い

て楽しむことができます。「浮いて」というのは、この湖の塩分濃度が普通の海水の約6倍もあり、水中で体が沈まず、楽に浮いていられるのです。成分的にも、イスラエルの死海と同じようなので、「中国死海」と呼ばれています。私たちが訪れたのは2月初めでしたので、ドームの中の施設に入りました。

ドームの中には塩の温泉、死海体験、泥浴の三つの施設があります。まず入場料を払い、さらに利用する施設の数に応じて料金を払います。幸い冬季割引料金で、一人につき合計208元(約2,912円)を支払いました。

受付で料金を払い、靴を預けてサンダルに履き替え、ロッカーの電子キーを受け取って更衣室に行きます。更衣室では若い女性係員のにこやかで元気な声が迎えてくれ、ロッカーへ案内をされ、キーの使い方を教えてくれました。

旅行中はパスポートや所持金の安全が気に掛かりますが、ここではそういう心配もなさそうで安心しました。持参した水着、帽子、水中メガネを着用し、係員が渡してくれたバスタオルを羽織るとまず塩の温泉に案内されました。

室内には大きい円形のプールのような浴槽があり、温



解池風景



屋内で浮遊体験ができる設備。世界最大という謳い文句の、面積1800㎡。一度に千人が入館できる



季節の良い時は外にあるこちらの施設で浮遊体験

度はぬるめの39度ぐらいに感じました。浴槽の中の縁に沿ったところには打たせ湯やジャグジーなどの設備があります。ぬるいのでゆっくり長く入っていられますが、もう少し熱めのお風呂のほうがよければ、隣の施設につづく出口手前の岩風呂をお勧めします。それぞれ泉質が違う42～3度の岩風呂がいくつか並んでいます。岩風呂を出ると係員がバスタオルを持ってやってきて、次の部屋へと案内をしてくれました。

次は湖の塩水がはられたプールで死海体験です。室内は、砂を敷いた床や椰子などの木で南方のリゾート地風の設えになっていて、そこに深さが腰ぐらいの大きな円形プールがあります。部屋に入ると係員が首にはめて使う空気枕を渡してくれました。それから、ゆるいすり鉢状に傾斜したプールの縁に腰をおろし、塩水が跳ねて目に入らないよう、ゆっくりと手と足でズリながら入るように身振り手振りを交えて指示されました。塩分が濃いので、目に入るとかなり痛いようです。

塩水は赤っぽい泥のような色で、中に入ると自然と足が浮き、適当なところで頭を枕に預け、身体を横にし、仰向けになりました。ドーム状の天井には青い空と白い雲の絵が描かれていて、天井の青い空を眺めながらしばらく浮いてみましたが、プールの中ではすぐに飽きてしまいました。

一時間ぐらい浮いていると、塩水の中の栄養分を身体の中に十分吸収することができるそうですので、次に行く機会があれば忘れずに本を持ってゆき、ゆっくり死海体験を楽しみたいと思います。水温は温泉ほどではありませんが、冷たくはありませんでした。

最後は泥浴です。プールに湖の底から掬いだした泥が浅くはられています。ちょうど田んぼの粘土質の泥のような感触です。その中に座り込み、泥を掬っては顔や身体に塗りました。泥をよく塗り込んだ後、サウナのような部屋に入りました。壁に沿ってベンチがあり、そこにじっと座って泥の成分がさらによく身体にしみこむのを待ちます。

長ければ長いほど効果はあるのですが、高温と高湿

度で15分ぐらいがやっとでした。その後はシャワーを浴びて泥を落とします。あらかたの泥が落ちたところで、さらに更衣室に続くシャワー室に入りました。

浴用タオルをもらい、石鹸やシャンプーなどで頭や身体を洗い、その後更衣室で髪を乾かし、服に着替え、外に出ました。入場をしてから約2時間でしたが、それぞれのプールの周囲にはイスとテーブルがあり、簡単な飲み物や食べ物が売られていますので、もっと長い時間を過ごすこともできます。

館内での飲食や買い物の支払いはロッカーキーをフロントに返す時にします。ここには水着や帽子、水中メガネも売っていますので、何の用意もなく行っても心配はいりません。中国語ができなくても、係員の対応が気持ちよく、色々なことを先立って案内をしてくれましたので、これも心配はいりません。

私たちが行ったのは春節休暇の最中でしたが、夕方の4時に入場をしたせいか、大方の客が出て行ったあとで混み合うこともなく、ゆっくりと入ることが出来ました。おかげで、すっかり疲れがとれ、後半の旅が楽になりました。顔もツルツルピカピカになりましたが、この後黄砂にまみれ、すぐに元のカサカサ肌に戻ってしまったのは残念です。

この解池のある運城市には中国最大の解州関帝廟と関羽の両親や先祖を祀った常平関帝家廟があることで有名です。関羽は运城郊外の常平というところで生まれ、長じてこの解池から取れる塩の闇商人になったといわれています。関羽のいた漢の時代、塩は国の大事な税収入の源として製造、運搬、販売が厳しく統制されました。しかし、国庫を潤すために次第に質の悪い塩を高く売ようになり、民衆は苦しめられました。人々は当然安い塩を求め、ここに義の人・関羽の活躍する場があったということでしょうか。

運城市は西安や河南省の洛陽、鄭州から高速道路で2～3時間で来られるという近さです。古代中国の遺産や遺跡の多いこの一帯は私の好きな場所ですが、新しい楽しみを見つけた感じです。